

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成18年6月28日
第714号

〒952-1209 佐渡市千種155
: 0259(63)4156 (直) 4115 (代) FAX: 4117
<http://www.sado.co.jp/kanaisyo/> E-mail: kanai es@sado.ed.jp



きれいな花が咲き乱れる季節になりました。
身近なところに咲いている花を、お子さんと一緒に探してみませんか。

学校や園では、水泳も始まっています。それぞれが目当てに向かって、楽しく元気に活動できたらいいですね。

子どもが自分自身を好きになるために

NHK 教育テレビの「ハートをつなごう」で発達障害の特集をやっていました。ご覧になった方も多いかと思います。その中でとても心に残ったことがあったのでご紹介します。

算数のLDをもつ現在41才の大橋さんの話です。国語は普通のできるのに、算数だけはいつも0点。いくら頑張っても一けたの足し算もできない大橋さんを、当時の先生は「頑張りが足りないからだ。」と厳しくしかったそうです。友達からのいじめもひどかったと言います。ですが大橋さんは大きくなって新聞社に入り、一面を飾る記事を何回も担当するほどの記者になりました。今は地元のテレビ局でキャスターなどもしているそうです。

つらく厳しい学校生活の中で支えとなったのは、お父さんの愛情あふれる接し方だったそうです。「おまえはすごい子だ。他の人とは違ういい子だ。すごい個性をもっている。」と、常に励まし、支えてくれたのだそうです。「お陰で僕は自分のことを嫌いにならず、好きなことを伸ばすことができた。」と大橋さんはしみじみと語っていました。

生きる力になるのは「自分が好き。僕（私）もいいところがある。」という自己肯定感であり、それをはぐくむのは周りの接し方なのだ実感させられたお話でした。(香遠)



子どもへの働き掛け

黒川病院の稲月先生によると、人の気持ちを読み取るのが苦手な広汎性発達障害の子どもでも、4年生のころにはほぼ相手の考えを察知することができるようになってくるそうです。しかしできることが増える代わりに、そのころからどんどん目立たない存在になっていくそうです。人との感じ方や行動の違いが客観的に分かるようになるけれど、「普通のふるまい」というものが分からないため日常生活で苦痛を感じ、次第に存在を隠してしまうからそうです。「自分は自分でよい」と思えなくなるわけです。

これは人とのかかわりに困難さを感じている子どもなら、だれにでも起こりうることだと思います。こんなときには、信頼できる人の存在が必要です。どんな人が信頼できるかとなると、まずは子どもの言い分を聞き、子どもの気持ちに寄り添ってくれる人になるのでしょうか。「あなたは と感じたんだね」と子どもが感じたことは受け止め、その上で「私なら と のやり方があると思うけど、あなたはどっちがいいと思う」のように望ましい行動を提案しつつ、選択を子どもにさせることも一つの方法です。信頼できる人の言うことなら耳を傾けようかという気にもなります。状況をうまく説明できない子には、内容を絵や字で表しながら話を聞き、それを使って説明してあげることも有効です。

一対一の関係ができてから社会性は育つと言われます。友達とのかかわりより、まずは保護者や先生との一対一の関係作りの方が大切になります。(中村)



親の会コーナー



会員の声 No.17

祝・こころの教室開設！！ 親の会会長 蛇ノ目直子

今年度も引き続き親の会会長を務めさせていただくことになりました。どうかこの1年、よろしくお願いたします。

今年度は「こころの教室」が新設されました。担当は「うきうきクラブ」や市の「すいすいスクール」でご活躍の香遠直子先生だと分かり、大変うれしく思いました。3人体制から4人体制に戻られたことは、先生方のご苦勞を数年間垣間見させていただいている者としては喜ばしいことです。しかし残念ながら、こころの教室の巡回指導校に、ことばの教室の分教室がある羽茂小学校が該当しませんでした。巡回指導を行うには、通常学級に該当児童が何人かいないからなりません。羽茂小学校在籍の息子は金井小学校に通って、他地域の児童と二人で仲良くご指導いただいておりますが、正直な話、金井まで通わせるのはしんどいところもあります。できれば地元で、南部3地区のだれかと学習できれば親としてはありがたいと思います。

さて、保護者の皆様の中に、お子さんがLD、ADHDなどと専門機関で診断された方もおられるかもしれません。でも焦りは禁物です。ある雑誌に書かれていたものをそのまま転載して紹介します。

「子どものときLDやADHDであっても、大人になって

才能を開花させた人はたくさんいます。アインシュタインもエジソンも、ダ・ヴィンチやピカソも、チャーチルもトム・クルーズも。子ども時代に能力のアンバランスや行動のコントロールに悩んだ人々が、見事に社会で活躍しています。創造性と独創性を求めるこれからの時代は、LDやADHDのようなタイプの人間の能力や才能を伸ばすことが大切ではないでしょうか。」(上野一彦、東京学芸大学教授)

「エルマーの冒険」という本のアニメ版には「If you wish!」という言葉も出てきます。今はできなくても、その気になればいつかできることがたくさんあります。それは一生かかるかもしれないが、長い目で見守っていきましょう。

最後に行政関係者の皆様にお願です。老人福祉も大切ですが、重度障害をもつ親御さんへの支援、「ことば・こころの教室」への予算割当て、すいすいスクールに送っていけない家族のための送迎バス、保護者の学習環境向上のため意欲的な保護者への研修会参加費用援助など、障害福祉においても今後ますますのご尽力をいただけますよう、お願申し上げます。



お知らせ



第1回運営委員会がありました

今年度第1回目の運営委員会が、6月5日(月)に金井小学校で行われました。限られた予算の中、今年度も事業を継続するとともに、LD・ADHD通級指導教室の充実に向けて取り組むことになりました。

運営委員の皆様、どうもありがとうございました。

今後の予定

夏休み中に、夏季言語検査、夏季相談会、教育講演会を行います。後日、案内を送付いたします。お気軽にお申し込みください。

